

毎 日 新 聞

クジラやイルカ 共存方法を模索



大会のチラシを手に講演会への参加を呼び掛ける田辺教授
＝松山市文京町の愛媛大で

クジラやイルカへの理解を深め、よりよい共存方法を模索する「日本セトロロジー(鯨類学)研究会」の第25回大会が24、25日、松山市文京町の愛媛大南加記念ホールである。四国では初の開催。

研究会は海岸に打ち上げられるクジラやイルカが後を絶たないことから、国内の研究者らが連携を深めようと始めた。昨年も国内で318頭、うち瀬戸内海で39頭が確認された。生物学や水産学、環境化学だけでなく、考古学、歴

松山 24、25日 鯨類学研究会

史学、民俗学者や一般の会員も参加している。

24日午後1時から公開講演会「イルカが語る人間活動の功罪」がある。富岡直人・岡山理科大教授▽寺山弘樹・日本ドルフィンセンター長▽田辺信介・愛媛大教授が講演する。

大会会長の田辺教授は「これを期に四国の鯨類研究をさらに盛り上げたい」と話す。問い合わせは実行委(089・927・8196)。

【松倉展人】